経

産

省

高速炉開

発

**(**) I

程表発表

ŧ

ん

ゅ

後継

維持が、

音伝

旦

額開発費

## 2018年 12月25日

月1回25日発行



発行所 原発問題住民運動全国連絡センタ 発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13 MMビルII 402

TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578 郵便振替 00150-7-355202 http://genpatu.com/index.html メール=genpatu-c@bizimo.jp

炉原型炉「もんじゅ」

(福井県

会議で廃炉が決まった高速増殖

一〇一六年に原子力関係閣僚

ている。 敦賀市) 世紀半ば頃に運転を始め、本格 る工程表の骨子を発表した。今 炉開発」について、 的利用は今世紀後半となるとし 一月三日、 の後継と称する「高速 今後の開発方針とな 経産省は十

ソである。 ごまかしながら悪政の限りを尽 を「もんじゅ後継」という大ウ の典型である。 あるが、経産省の今回発表もそ くすのは安倍政権の政治手法で 大風呂敷を広げて国民の目を 「高速炉開発」

もんじゅ」 開発は高速増 殖

できる」

月日(土)14:00~

○||日時||-| 〈全国総会・交流集会 「サンピアン川崎」 |月三日(日)10:00~| 16:00

1994年12月15日

第三種郵便物

)交渉先=電事連・東電・規制委)日時=二月四日(月)10:00~

「ミューザ川崎シンフォ ○日本の原発輸出 相次ぎ頓挫

38) である。 る。この欠陥を克服する原子炉 ある。天然ウランが燃料に使わ 子を一個吸収すれば核分裂性プ えない。軽水炉は超浪費型であ ほとんどを占めるU238は使 して燃料とする。天然ウランの 三㍍は非核分裂性ウラン(U2 だしか含まれない。 性ウラン(U235)は○・七 れる。天然ウランには、核分裂 い。これは決定的な違いである。 は同じだが、増殖炉開発ではな は冷却材にナトリウムを使う点 炉開発である。 原理を利用する炉である。 のU235を三~四粁に低濃縮 トニウム239となる。 世界の原発の大半は軽水炉で U238は中性 軽水炉では、こ 「高速炉開 残り九九・

来の主流」と位置づけてきた。 『速増殖炉開発を「原子力の将 天然ウランのほとんどを利用 日本の原子力政策は当初から (これもウソ) として 特定集団への利益確保に奉仕す 断じて許されない。 る姿勢が透けて見える。 益を、引き続き「高速炉開 国民に背を向け、 原子力

一新増設凍結」に矛盾 四面 新 小型原発開発 面

「脱原発」条項失効でも

(五面)

国民は堪ったものではない

食 11

発

稼

働

はやる。

被災者、

ことで諸

対

策

は

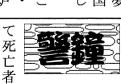
サ

ッボる、

ても日本は固執した。 技術的経済的困難から撤 原子炉」と宣伝。 のない日本には最適の 西欧主要国 夢

開発」について「無理なものを で継続・維持する構図である。 もなかった。 費する」と批判する。 研究しても予算と優秀人材を浪 くるものは、 の伏線である。政策の吟味もな 失したもの。 議で廃炉が決定された。遅きに 次ぐ事故を受けて、関係閣僚会 兆円超の巨額資金を浪費し、 原子力委員会委員長が「高速炉 速炉開発」の同時決定で見えて をこえた政治的決定である。 く、これまでの政策決定の手順 ムの危険が大きく経済性もない。 の増殖炉開発ではない。 「もんじゅ」廃炉で失う巨大利 この「もんじゅ」廃炉と「高 「もんじゅ」は、国費二・一 「高速炉開 原子力政策の検証 「高速炉開発」 「原子力村」 発 ナトリウ 岡芳明 は、 発 相

難者 を語 財界 発言 な かり止 月 相。 説。 考える公開 ればいい」 服なら) が起きたが、 の三十年後のエネルギーを 己経団連副 本人の責任でしょう。 はコントロールされている」 (安倍晋三首相五輪招聘演 面 (汚染水について) で 「 第 一七年 いたも 代 ŧ は 一三年九月)。 まっ 表 見る必要がある」 「(帰らな 裁判でも何でも が れ もの。 -四月) 福島 らは、 た。 会議 会長は、 第 (今村雅弘復興 原発では事 ポジティ 一原発はし 事故の本音 (一八年三 「忘れる」 日本の いの 飯島彰 自主避 経産省 は 状 示 لح 故 況 政 9 Þ



好都合」とする

「原発事故によっ

会長。

二〇一三年六月)。

はない」

(高市自民党政調

が

出ている状況

で

島第 ついて「忘れる方 自 公 原発事業 政 権 は 故 12 福